



大雨・洪水

強い雨が続き、洪水災害の危険性が高まります。
最新の気象情報に注意して、早めの備えをお願いします。

洪水の基礎知識

洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量が、ふだんより著しく増えた状態をいいます。
はん濫とは、川などがあふれ広がることをいいます。
川から水があふれることを「外水はん濫」といい、街や農地に降った雨が水路などで排水しきれなくなり、あふれることを「内水はん濫」といいます。

外水はん濫



内水はん濫

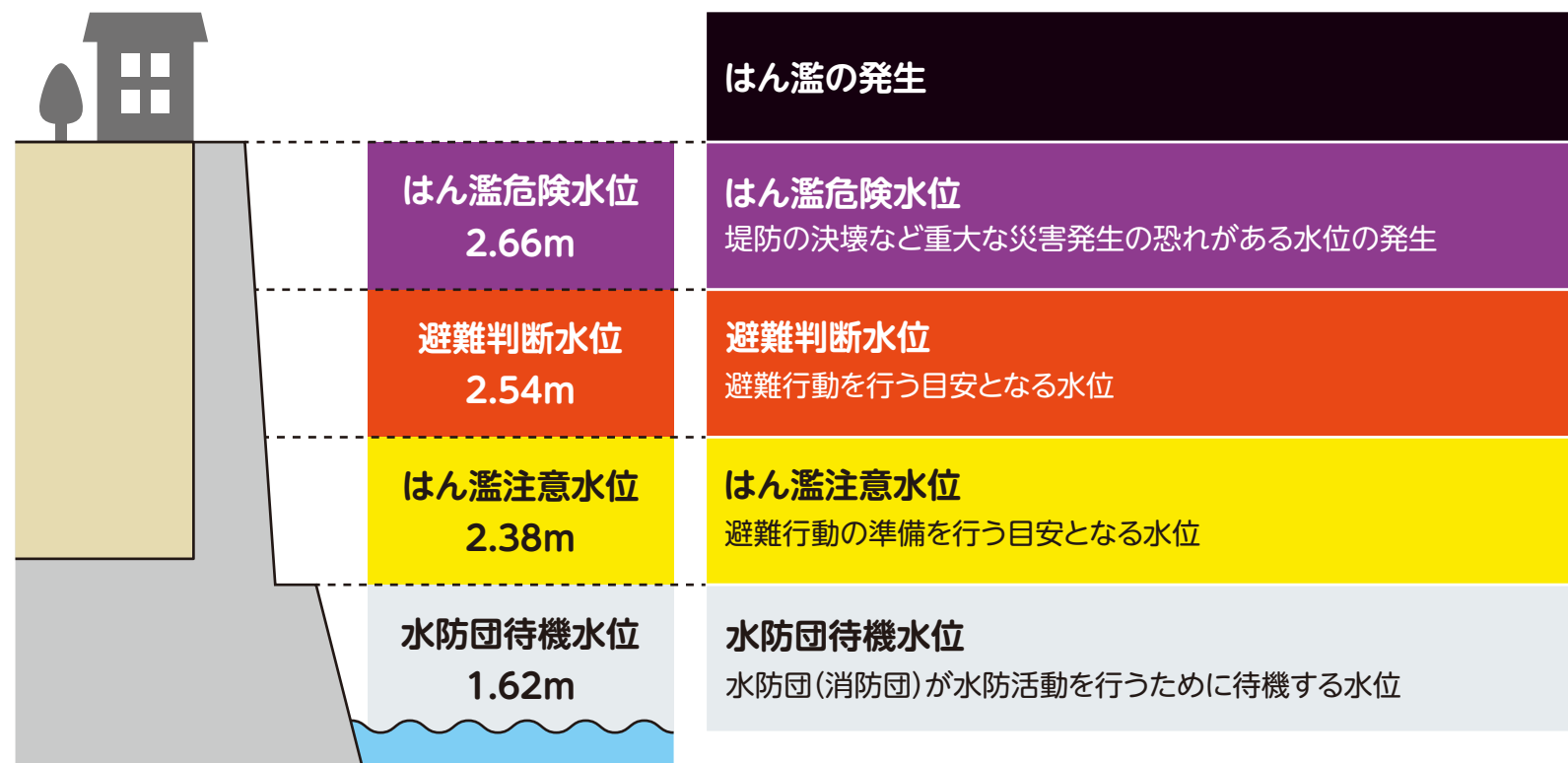


洪水に関する河川情報(西郷川)

川沿いでは情報に注意し、すばやい行動を心がけましょう。



※福岡県河川情報で西郷川四角橋の水位を確認できます。
http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis_top/



防災メモ

洪水の危険度

スマートフォンで「キキクル(危険度分布)」と検索し、洪水キキクルのボタンを押すと、西郷川や八並川、手光今川などの洪水の危険度について確認できます。



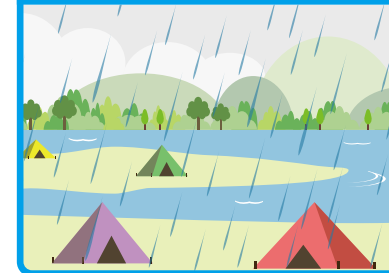
気象庁危険度分布(キキクル)

局地的大雨の危険性

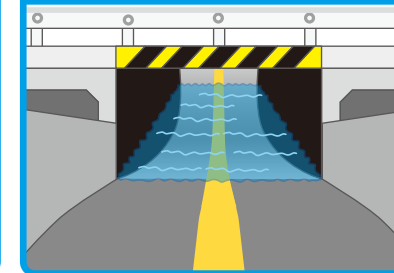
近年は、ごく狭い範囲に強い雨が降り、中小河川のはん濫による浸水被害が起きています。発生の予測が困難で、大雨警報や注意報の発表基準に達していない雨でも災害が発生するおそれがあります。
特に中小河川では短時間で危険な水位に上がりやすいので注意が必要です。
低い土地にお住いの方は、気象情報の雨雲レーダーで、雨雲の動きを的確に把握できます。テレビからはデータボタンを押して確認できます。貴重品は家の中の高い所へ、車は高台への移動をお勧めします。水の深みに入ると、エンジンが停止し、ドアや窓が開けられず脱出できなくなる恐れがあります。

もし、こんな場面にいたら...

河原や川の中州での釣りやレジャー



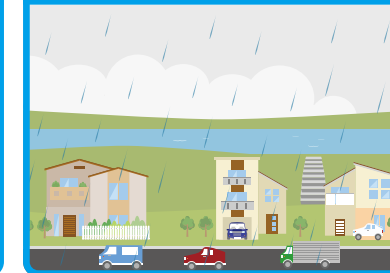
地下をくぐる形式の立体交差(アンダーパス)



河川や下水道の工事現場



川の側にある低い土地の家



天気の変化に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください

空の状態
「急に真っ黒な雲が近づいてきた」
「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」

川の状態
「水かさが増えてきた」「にごってきた」
「流木や落ち葉が流れてきた」

警報装置
サイレンの音が聞こえる

天気予報
「大気の状態が不安定」「雷」「天気の急変」などの表現がある

警報や注意報
雷注意報、大雨や洪水の警報・注意報が出ている

看板
「危険区域には立ち入らない」などの表現がある

レーダー等の観測情報(携帯電話などで入手)
周辺や上流で雨が降っている

こんな時は **要注意!** ➡

総雨量は少なくても、**短時間で甚大な被害**が発生することがあります

要チェック!大雨の危険を示す防災情報

大雨の増加に伴い、よく耳にするようになった気象庁の発表情報です。

線状降水帯

発達した雨雲が次々と列をなして線状に伸びる強い降水帯で、長時間にわたってほぼ同じ場所に停滞し、激しい雨を降らせます。
線状降水帯により大雨災害発生のおそれがある場合は、半日ほど前から気象庁がお知らせします。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しか発生しないような短時間大雨(県内の規準は1時間雨量110ミリ)を観測したときに気象庁が発表します。「警戒レベル4相当」以上に該当します。この情報が発表された地域は、土砂災害や浸水、中小河川の洪水の発生につながるような猛烈な雨が降っています。

防災メモ

昭和28年6月大水害

福岡町史や津屋崎町史によると、昭和28年6月25日から九州一円を豪雨が襲い、宗像地方でも、6月25日から28日の4日間で、500ミリを越す降雨量であったとの記録があります。